

出張報告

報告日 令和7年8月12日

会 派 名	柏崎の風
報告者氏名	春川 敏浩・柄沢 均・三嶋 崇史
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	地方議会議員セミナー
日 時	令和7年8月7日 ～ 令和7年8月7日
場 所 （会場）	京都 J A ビル（京都市南区東九条西山王町 1）
概 要	株式会社 廣瀬行政研究所 地方議会議員セミナー 政策議会の実現に向けた議会・議員の取り組み 【第1部】政策議会をつくる 二代表制とヒロバとしての議会 1. 定数削減となり手不足問題が示すもの 2. 議会・議員像の再設定 3. 議会による広報広聴の戦略 4. 市民と議会のもやい直し 【第2部】政策議会の一般質問 1. 「政策議会」の基礎理論 2. 一般質問の機能と制度 3. 一般質問を機能させるために 4. 政策議会の「資源」と「成果」
所 感 等	【春川 敏浩】 政策議会構想こそ重要であり、市民に分かり易い制度が求められている。市民に対する議会活動の見える化は言うまでもない。地方議会において、提案議案通り採決される議会は、2024年度、全国で99.3%となっていることを指摘した。要は、議案内容について市民に分かるように広報することが重要である。自治体基本条例は、議会基本条例と行政基本条例があるが柏崎市議会ではすでに議会基本条例は作成済である。 一般質問においては、まちを良くする課題を調査し、議員には2つの現場がある。①課題の現場 ②その対応するはずの行政の現場。論点となる案件を自分で書き出す、そして議場でも整理した事項を手元に置き確認しながら質問した方が効率的であると助言があった。岐阜県可児市では、一般質問の内容を各委員会分析し提言につなげるよう実施しているとのことである。これは、大い



に参考になり今後の研究材料にもなった。

【柄沢 均】

議員・議会像の印象が良くない、市民から見た議会・議員の印象は何をやっているのかわからない。よってメディアや SNS などから得た情報による目線での評価となっていることがある。議員のなり手不足の原因でもある。自治体は市民が必要とする〈政策・制度〉を整備するためにあり、わがまちの〈政策・制度〉は議会があるからよい状態であると市民から評価を得なければならない。議会の「成果」を積み重ね、見える化する広報公聴の戦略が必要。鷹栖町「議会広報」、飯田市「課題共有型円卓会議」など先進的な事例は大いに参考となる。

また、一般質問は議員にとって自分の活動と知見を集約し、わがまちの〈政策・制度〉の争点を提起し、監査・提案できる機会であり、自治体政策を間接的に制御する機会である。その質問で「まちはよくなる」か、そのために何を「問い質す」のか、その論点は監査機能を果たすのか、政策提案機能を果たすのか。情報収集を基に事実と分析を論拠として主張することをしっかりと組み立てたい。

我が柏崎市議会も改善点はまだまだ多くある。講義内容の政策議会をつくること、そしてそのための一般質問を追求したい。

【三嶋 崇史】

地方議員選挙マニフェスト活用実態調査2023によると、地方議会や議員について持つ印象をアンケート調査した結果、地方議会や地方議員が何をしているかわからないと回答した人が50%であった。この結果に対し先生は、職業選択としての議員のやり甲斐、処遇等をあげ、議会像、議員像をしっかりと説明、理解させることが重要と述べた。首長と議員は二代表制（執行機関、議決機関）である。予算や条例などの提案に議論を重ねる仕組みを丁寧に説明し、情報共有する必要を強く感じた。

また、政策議会の一般質問の講義では、論点が大事であり事実、分析、主張で構成されている。私は一般質問の仕組みについて学びたい項目であったので、目から鱗が落ちるような新たな視点を得た。聴く事の重要性、争点となる情報の収集、基礎情報となるデータ、専門情報を機能させ、質問の論点を絞る。今まで必要不可欠な問題提起を自分はしていたのだろうかと反省した。先生曰く「残念な質問やもったいない質問」を検証し、「何が問題なのか」「分かりやすく語る工夫」を心掛けると締めた。

政策議会の在り方、議員としての姿勢を改めて学び、自己研鑽を積み、今後の活動に活かしていきたい。